

審査情報

官報公示 整理番号	6-2752	CAS No.	—
判定結果	白物質		
名称 構造式等	<p>名称：<math>\alpha</math>-（ジフルオロメチル）-<math>\omega</math>-（ジフルオロメトキシ）ポリ（<math>n=0\sim 2</math>）（オキシジフルオロメチレン-<math>c o</math>-オキシテトラフルオロエチレン）</p> <p>分子量：200～350 分子式：— <math>m=0\sim 2</math>、<math>n=0\sim 2</math></p> $\text{CF}_2\text{H}-\text{O}-\left(\text{CF}_2\text{CF}_2\text{O}\right)_m-\left(\text{CF}_2-\text{O}\right)_n-\text{CF}_2\text{H}$		
分解性	<p><b>難分解性</b></p> <p>分解度試験（OECD 化学品テストガイドライン 301D クローストボトル法：28 日間） BOD による平均分解度：0%（0(-2),0(-2)） GC による平均分解度：0%（0(-3),4）</p>		
蓄積性	<p><b>高濃縮性でない</b></p> <p>濃縮度試験（化審法テストガイドライン：60 日間） 試験魚種（急性毒性試験：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i>、濃縮度試験：コイ <i>Cyprinus carpio</i>） 96hLC50値：&gt;40mg/L 水槽設定濃度（第1濃度区）：0.2mg/L（第2濃度区）：0.02mg/L 助剤使用：有（HCO-40、2-メキソエタノール） ピーク A：BCFss（第1濃度区）：12～36倍、BCFss（第2濃度区）：&lt;25～34倍 ピーク B：BCF（第1濃度区）：108～344倍、BCFss（第2濃度区）：210倍 ピーク C：BCF（第1濃度区）：461～1510倍、BCFss（第2濃度区）：903倍</p>		
Ames	<p>陰性</p> <p>純度 &gt;99%. 溶媒（DMSO-溶解）. TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA/pKM101. （試験 I） -S9mix 群：5000 <math>\mu</math> g/plate +S9mix 群：5000 <math>\mu</math> g/plate （試験 II） -S9mix 群：5000 <math>\mu</math> g/plate +S9mix 群：5000 <math>\mu</math> g/plate</p>		
染色体 異常	<p>陰性</p> <p>純度 &gt;99%. 溶媒（DMSO-溶解）. 培養ヒトリンパ球 5.0mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験結果を参考に以下の濃度まで実施。 -S9mix 群：5.0mg/mL +S9mix 群：5.0mg/mL 21 時間処理群：5.0mg/mL</p>		
28 日間 反復投与	投与方法	吸入（全身暴露）	
	純度	99%以上	
	用量	3 投与群（1000,3300,10000ppm・6h/day）[実測値：1016,3323,9842ppm]	
	死亡		
	NOEL	1016ppm（♂：3341mg/kg/day、♀：4837mg/kg/day）	
	推定根拠	<p>相対重量（肝↑：3323 ppm 以上♂・9842 ppm ♀） 組織学的所見（肝-小葉中心性肝細胞肥大：3323 ppm 以上♂・9842 ppm ♀）</p>	
	他の毒性	血液生化学的検査（Glc↓：9842ppm ♀、Cho↓：9842ppm♂）	
回復性	問題なし		

判定根拠	スクリーニング毒性試験 Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL3341mg/kg/day であることから、白物質相当。		
(参考) 生態毒性	魚毒性	—	濃縮度試験の用量設定試験におけるヒメダカ急性毒性試験結果(96hLC50)は、助剤濃度が100mg/lを超えていることから、生態毒性の評価には利用しないこととする。
	甲殻類毒性	—	—
	藻類毒性	—	—
備考			